

“どうして女の子は、僕より背が高いんだろう？”



あの娘と 自転車に 乗って



1998年ロカルノ国際映画祭銀豹賞 1998年東京国際映画祭アジア映画賞特別賞

ベシュケンビールは多感な年頃。

けんか、度胸試し、

大きなおっぱい、

でも、一番気になるのは

“あの娘”のこと。

やわらかい風の中、

自転車を走らせよう、

いつか、あの娘とふたり乗り。



1998年カールノ国際映画祭銀豹賞
 1998年ユーラシア国際映画祭グランプリ
 1998年ヴィエンナーレ国際映画祭観客賞
 1998年東京国際映画祭アジア映画賞特別賞
 1998年モントリオール国際映画祭正式出品作品
 1999年サンダンス国際映画祭正式出品作品
 1999年ロッテルダム国際映画祭正式出品作品

あの娘と自転車に乗って

女の子の方が、男の子より
 少し背が高くなる「思春期」の入り口

「もらいつつ」であることを知らずに育ったベシケンピールは、どこにもいる男の子。仲間たちと悪さばかりして、厳格な父親に叱られる毎日。そんな彼も、近所に住む女の子にほのかな恋心を抱くような年頃を迎えている。ある日、ベシケンピールは、今の両親が本当の親ではないという噂を耳にする。彼は、仲間たちの自分に対する変化を感じ、孤立してしまう。そんな中、おばあちゃんの危篤の知らせが届く。

『あの娘と自転車に乗って』は、「思春期」にさしかかった少年が、自らの身にふりかかる試練を乗り越え、一歩一歩大人の世界へと近づいていく過程を詩情豊かに描いている。

キルギスタン豆知識

●キルギスタンには、養子縁組みの法律はないが、子供のいない夫婦が、子沢山の夫婦から養子をもらうという、昔からの風習がある。そして、5人の養老婆という意味もある。●キルギスタンでは、悪魔を欺くため、意図的に奇妙な呼び名を子供につけることがある。本作の主人公の名がベシケンピールとなったのは、そういった由来によるものである。●キルギスタンでは、一般的に羊や牛が食べられている。しかし、葬式の際には、馬を一面つぶし、みんなで食する風習がある。それは、馬が死者の魂を天国まで運ぶ動物と考えられているからである。

おっはいの覗き目に始まる仲間たちとのいたずら、好きな女の子と話をしたい、自転車で乗りたいたいといった感情、その女の子をめぐるけんかなど、異性に対して興味を持ち始め、養子であるという事実や、祖母の死といった辛い現実と向き合う。本作は、無邪気なだけではいられない、そんな多感な時期の少年の姿をありのままに描いている。



監督は、キルギスタン出身のアクタン・アブディカリコフ。ベシケンピール同様、養子である彼は、少年時代の体験や想い出を綴った本作で、長編デビューを飾り、ロカルノや東京をはじめ、各国の映画祭で数々の賞を受賞する快挙を成し遂げた。

主人公ベシケンピールを演じるのは、監督の息子ミルラン。子供とも大人とも呼べない時期を迎えた少年の複雑な心理や感情を、見事に表現している。また、その他のキャストには、素人演者を引き出すことに成功している。自然な演技を引き出すことに成功している。

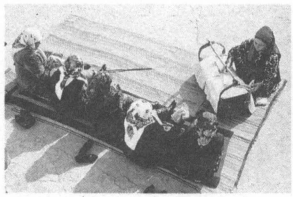
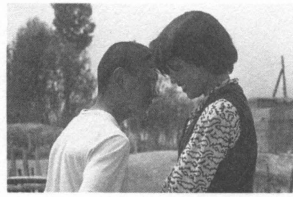
想い出を綴るセピアの映像

単なるモノクロとは言いがたい映像は、まるで古い写真のように、時にセピア色に、時に漆黒や緑色にと、微妙に色を変える。そして、喜びや苦しみといった感情の「染み」の部分だけが鮮やかなカラーとして現れる。それらは鳥の声や、風や水の音など、自然に溢れる音や光と合わり、絶妙なハーモニーを醸し出している。

91年ソ連が崩壊し、キルギスタン共和国が誕生した。それは映画製作に於いては、困難な状況の始まりであった。今までのように国家予算で、莫大な製作費がかかる長編劇映画を作ることができず、その為、海外の資本、もしくは共同での製作しか道がなくなってしまった。そして、独立後7年にしてようやく、フランスとの共同で、記念すべきキルギスタン共和国の長編劇映画第1作『あの娘と自転車に乗って』が誕生した。

99年5月にキルギスタンで本作が一般公開されるや、大ヒットを記録した。それまで劇場で、ハリウッドの大作や、ヨーロッパ映画を観ることは出来なかった観客たちも、自分たちのルーツを探るかのよつに、本作に酔いしれ、笑い、涙した。そして、映画の中のベシケンピールのヘアスタイルや養子縁組みの儀式が流行するなど、社会現象を巻き起こしているといつ。

キルギスタン共和国、
 長編劇映画「第1作」誕生!!



Beshkempir (The Adopted Son) 監督◎アクタン・アブディカリコフ 制作◎イリザイ・アリバエフ、セドミール・コラール 脚本◎アクタン・アブディカリコフ、アヴタンティル・アディクロフ、マラト・サルル 撮影◎ハッサン・キディリアレフ 出演◎ミルラン・アブディカリコフ、アルピナ・イマスメワ、アティール・アブリカシモフ 1998年◎キルギスタン-フランス合作◎カラー◎ヴィスタ◎81分 配給◎ピタース・エンド

スクリーンにキルギスのさわやかな風が吹く!
11月27日(土)よりモーニング&レイトショー!!
 特別鑑賞券1,500円絶賛発売中!!(当日一般1,800円の処) (12/10(金)マデ)

●モーニングショー連日あさ10:30~11:55
 ●レイトショー(日曜休映)よる9:00~10:25
 劇場窓口、エスト1PG、チケットぴあにてお求めください。
 ※劇場窓口でお買い求めの方にポストカードをプレゼント(限定数50)

梅田口トB1 06(6359)1080
テアトル梅田
<http://www.cinemabox.com/>